

普及活動情勢報告（平成 30 年 10 月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

温室みかん部会山北支部現地研修会



10月16日、JA土佐香美温室みかん部会山北支部が現地研修会を開催し、生産者14名が参加しました。各ほ場では、加温開始時期やそれに向けた管理方法の確認を行いました。

農業改良普及課は、実証ほを含む炭酸ガス施用3ほ場の収量推移を示しました。いずれのほ場でも施用前と比べ増収しており、生産者の関心は高まりました。

部会では今作、新たに9棟で炭酸ガス施用が始まる予定で、本格的に産地に炭酸ガス施用技術が導入される年となります。農業改良普及課では、炭酸ガス施用により増収を達成できるよう、関係機関と協力して導入農家に技術指導や情報提供等を行います。

オオバでも環境制御とIoT ～愛知県の先進地視察～



9月26～27日にJA南国市の生産者と関係機関の5名が、環境制御技術と選別・結束機械の情報収集で先進地の愛知県を視察しました。

生産者からは、「選別能力や結束の精度などに改善点はあるが、ロボットアームの動きやカメラ画像による選別が精密で驚いた。導入を検討したい」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は、オオバにおける環境制御技術の普及に向けた現地実証や情報提供、また省力化に向けた選別・結束機械の導入を支援していきます。

基本技術の再確認！JA土佐香美なす部会現地検討会の開催



9月25日、JA土佐香美なす部会現地検討会を開催し、生産者11名が参加しました。

今園芸年度の安定した収量を目指すための基本技術として、巡回ハウスで土壌採取用のパイプを利用し、土壌内の水の状態を生産者と一緒に確認し、それぞれのハウスでの今後のかん水管理について指導しました。また、かん水と光合成、蒸散の関係についても資料により説明し、ハウスにあったかん水の重要性を再度確認しました。

農業改良普及課は、今後もJAや部会と連携し、基本技術の再確認と環境制御技術による増収に向け支援を行っていきます。

人を活かし、雇用の悩みを解決！！ ～第1回南国市集落営農塾を開催～



10月16日、南国市認定農業者協議会の総会後に集落営農塾を開催し、関係機関を含めて35名が参加しました。農業改良普及課は関係機関と連携して、塾の内容への助言、対象者のリストアップや呼びかけ等を支援しました。

講師には、人材育成等の専門家である(株)丹後王国の中川代表取締役社長をお招きし、認定農業者や集落営農組織等の重要課題である「雇用の悩みの解決策」についてご講演いただきました。

参加者からは、「受入側の体制づくりの重要性や、求める人材の明確化など大変参考になった。」との声があり、雇用にあたっての受入体制やコミュニケーションの大切さなどの理解が深まりました。

今後も関係機関と連携して、多様な担い手の課題解決等を支援していきます。

～こだわりミカン生産に向けて～ 「夢みかん」現地研修会の開催



10月17日、JA土佐香美露地みかん部会は「夢みかん」現地研修会を開催し、生産者7名が参加しました。

「夢みかん」とは、マルチ栽培を行い共選出荷された露地ミカンのうち、高い品質基準をクリアしたブランド果実です。

今回は収穫時期が近づいたことから、生産者の全園地を巡回して果実の仕上がりを確認し、今後の管理について指導しました。講習会は毎月開催しており、これにより栽培技術や品質が平準化されています。

農業改良普及課は、今後もJAや部会と連携し、こだわりミカン生産への支援を行っていきます。

産地を支える担い手確保対策を協議



10月1日、市役所において第2回香南市農業活性化地域協議会「担い手・労働量確保部会」が市・JA・農業改良普及課など10名が参加し開催されました。

今回は、移住希望者を対象とした「ワーキングホリデー事業」や労働力補完を目的とした「農作業体験モニター事業」について実施内容やPR方法を協議しました。その結果「農作業体験モニター事業」では市の広報誌を活用し市民を中心にPRしていくことになりました。また、農業改良普及課は就農支援対策の一環として建設予定の実践型ハウス（仮称）の円滑な運営方法について助言しました。

農業改良普及課では、担い手の確保・育成に向けた事業の実施等支援していきます。

